

日本組織培養学会  会員通信 第 1 5 0 号 令和 6 年 10 月 7 日	発行者 一般社団法人 日本組織培養学会 編集 一般社団法人 日本組織培養学会 情報・アーカイブ担当理事 山本 直樹（藤田医科大学） 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 藤田医科大学 研究推進本部 産官学連携推進センター／ 国際再生医療センター E-mail：naokiy@fujita-hu.ac.jp
--	--

目 次

1. 新理事会の発足について	2
1) 選挙管理委員会報告	
2) 代表理事挨拶	
3) 新理事会	
4) 旧理事挨拶	
5) 新理事挨拶	
2. 令和 6 年度 理事会報告	7
1) 会員動向	
2) 学会誌「組織培養研究」発刊報告	
3) 国内外渉外状況の報告	
4) 年会費値上げについて	
3. 令和 5 年度 会計報告	9
4. 令和 6 年度 予算書	18
5. 第 96 回大会（2024 年）を終えて	19
1) 大会長報告	
2) 研究奨励賞・EPA 審査結果	
3) 研究奨励賞受賞者	
6. 委員会報告	23
1) 細胞培養基盤教育委員会（細胞培養基盤技術コース開催予定）	
2) 細胞培養講習会運営委員会の設置	
3) 総務委員会の設置および規定	
7. 第 97 回大会（2025 年）開催のお知らせ	27

1. 新理事会の発足について

1) 選挙管理委員会報告

選挙管理委員会：浅香 勲，森 一憲

投票は令和 6 年 3 月 31 日 24:00 をもって締め切られ，4 月 1 日に当学会定款細則第 6 条第 2 項(2)に基づき，正会員 樋口竜也氏の立ち合いのもと開票を行い，有効投票総数 397 票を確認し，下記の結果となりましたことをご報告いたします。

総投票数	397	有権者数	50
無効票数	0	投票者数	28
有効票数	397	投票率	56%

候補者名 (立候補者リスト順，敬称略)	当落
森 一憲	当選
藤井 万紀子	当選
竹澤 俊明	当選
高山 和雄	当選
山本 直樹	当選
片岡 健	当選
筒井 健夫	当選
小原 有弘	当選
林 洋平	当選
山崎 泰助	当選
嶋本 顕	当選
菅 修平	当選
中村 和昭	当選
松木 亨	当選
細見 晃司	当選

2) 代表理事挨拶

代表理事：藤井 万紀子

この度，一般社団法人日本組織培養学会としての初めての評議員改選，理事改選が行われ，それに伴い，2 期目の代表理事を務めさせていただくこととなりました。任期は 2026 年 4 月末までとなります。1 期目は新型コロナ感染拡大の中で学会運営を行い，その中で法人化を進めてまいりました。法人化に関しては，新たな業務委託先である学会支援機構と協議を重ね，法人化推進委員会委員長の浅香 勲先生を中心に，定款ならびに定款細則作成を行っていただきました。その定款に基づいた学会運営に関する総務関連運営事業については，情報企画委員会委員長の森 一憲先生，財務関連運営事業については会計委員会委員長の筒井健夫先生を中心に，理事の先生方全員の多大なるご助力とご貢献により，詳細を詰めていただきました。2024 年からの 2 年間では，これらの業務を軌道にのせることを目的とした新たな常設委員会を設置し，運営業務のルーチン化を進めていくことを考えております。

効率的な組織体制の構築は，日本組織培養学会の運営を効率よく行うためだけで

なく、運営に参画する先生方への負担を軽減し、若手の先生方にも抵抗なく参画していただくために重要だと考えています。研究・学術領域に限らず、学会運営や組織運営においても、若手の先生方に積極的に参画していただき、様々な分野の先生方とのコミュニケーションの機会を得ていただくことが、日本組織培養学会の将来にとって重要であると感じております。

2024年6月27日から28日にかけて開催された日本組織培養学会第96回大会（大会長：林 洋平先生）では多くの素晴らしい講演や発表が行われ、質疑応答も非常に活発に行われました。大会を盛り上げてくださった参加者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

大会直前に、故 高岡聰子先生の細胞培養記録のファイルの保管場所に関してのご相談を、株式会社ニコンから日本組織培養学会のほうにいただきました。高岡先生は、我が国における細胞培養の黎明期から、培養技術の開発研究に尽力され、後進の指導にも大きく貢献されました。また、日本組織培養学会の設立にも深く関与されており、私自身は直接お会いする機会はなかったのですが、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のホームページに掲載されている「日本組織培養学会の始まり」を興味深く読ませていただきました。その冒頭には、「第二次大戦後、停滞していた組織培養研究が活発になり、日本でも組織培養法を用いて研究を行おうとする若者たちが現れました。そして、その人達は、師匠も持たずに、ひたすら文献に頼って試行錯誤をくりかえしながら、それぞれの技法を確立していったようです。」とあります。「1956年、そうした若者たちが一堂に会し、各自の組織培養研究について発表し議論を闘わせることになりました。」と、戦後の新たな時代に対する情熱、憧れ、希望、探求心に満ちた若手研究者たちの生き生きとした姿の描写が続きます。

しかし、1998年に記されたこの文章の中では、「研究会発足当時を思い浮かべますと、若い人達の熱気が蘇ってくるようです。しかし、40年以上もの月日を過ぎた現在、多分同じ雰囲気とは言えないでしょう。世界の歴史を考えてみても、志を立てて事を成就した若い集団も、月日と共に老成するのは至極当然だと思われます。常に集団としての若さと熱気を保ち続けるのは難しいことでしょう。」という、当時の高岡先生の思いも伝えています。私自身、学会が老成することは必ずしも悪いことだけではないと考えていますが、一方では若手研究者による研究への情熱と盛り上がり学会活動を活気付けるために必要だという気持ちはどの時代においても同じだと感じました。悩みは今も昔も変わらない、と言えるかもしれません。そこから更に25年が経過し、大会開催回数も96回を超えた今、改めて高岡先生がご活躍された時代に思いを馳せています。時代が進み、研究内容や方法が変化し、メールでの情報交換やリモート会議が行われるようになった昨今ですが、日本組織培養学会の研究に対するマインドは、研究会として産声をあげた当初と基本的には変わっていないと感じていますし、今後もこの精神を持ち続けていくべきだと考えています。日本組織培養学会は、偉大な先輩方が抱いた研究への情熱や思いを次世代に繋げていくために、これからもその役割を変わりなく担っていきます。

第97回大会は、2025年8月21日-22日にかけて公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学にて、嶋本 顕先生を大会長として開催されます。山口県は、観光資源が豊富ですので、その点もぜひ楽しみにしてご参加ください。

* 高岡聰子先生の文章は jtca.umin.jp/history/history-index.html から引用し、本文では一部改変しています。ご興味がありましたら、ぜひ全文をお読みください。

3) 新理事会

◆ 新理事（任期：2024 年 5 月～2026 年 4 月）

片岡 健	岡山理科大学
菅 修平	株式会社メニコンネクト
小原 有弘	医薬基盤・健康・栄養研究所
嶋本 顕	山口東京理科大学
高山 和雄	京都大学 iPS 細胞研究所
竹澤 俊明	千葉科学大学
筒井 健夫	日本歯科大学
中村 和昭	国立成育医療研究センター研究所
林 洋平	理化学研究所
藤井 万紀子	広島大学
細見 晃司	大阪公立大学
松木 亨	愛知県医療療育総合センター発達障害研究所
森 一憲	昭和大学
山崎 泰助	河野臨床医学研究所
山本 直樹	藤田医科大学

（以上 15 名）

◆ オブザーバー（代表理事より依頼）

浅香 勲	京都大学 iPS 細胞研究所
西條 薫	理化学研究所
永井 慎	岐阜医療科学大学

4) 旧理事挨拶

一般社団法人日本組織培養学会理事退任にあたって

浅香 勲（京都大学 iPS 細胞研究所）

秋暑厳しき候、本会会員の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は本会の活動に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば私が会長を務めていた 2019 年の幹事会ならびに総会において、法人化への準備の一環として本会役員の理事制への移行と、理事選挙への立候補の年齢制限を設けさせていただき、その後の 2020 年 3 月に前任期の理事選挙を実施させていただきました。本来であれば、その後の大会において開催される予定であった総会において定款ならびに定款細則の承認を受け、一般社団法人への移行後の 2021 年 4 月前に会長退任とともに役員を退任する予定でございましたが、ご承知のように 2020 年 1 月以降の新型コロナウイルスのパンデミックにより当初の予定を大幅に遅らせることになりました。法人化への移行は、私が会長を仰せつかった際の目標であり、法人登記を済ませて一般社団法人としての体制が整うまでは責任を全うするため、会長を退いた後も一理事として法人化の手続きを進めさせていただきました。理事長ならびに他の理事の先生方のご助力もあって、予定より 1 年程度は遅れましたものの、2022 年 5 月に一般社団法人日本組織培養学会の法人登記を済ませ、会員の皆様共々一般社団法人へ無事移行し現在に至っております。

私が会長の任期中の発足したもう一つのプロジェクトとして、「組織培養の技術第 4 版」の編集・出版も進めておりましたが、こちらも新型コロナウイルスのパン

デミックにより予定より遅れることになりましたが、編集委員の先生方の多大なご協力をいただき、昨年7月によりやく出版することができました。

上記2件の成果は、理事長ならびに他の理事の先生方のみならず、本会内外の先生方の協力なしでは成し遂げられなかったものと思っており、関係諸氏には改めてお礼申し上げる次第です。

私は定款細則の年齢制限の条項により理事を退任することとなりましたが、本会の学術活動が社会への貢献となるためにはまだ多くの課題が残されております。それらの課題の克服が、今後理事長以下の会員諸氏、特に若い先生方の積極的な参加による活発な学術活動の遂行により成し遂げられることを祈念し、理事退任の挨拶にかえさせていただきます。

黒澤 尋（山梨大学）

この挨拶を執筆している現在（8月7日）は、パリオリンピック2024の真最中があります。感動的な勝利、涙の敗退、奇跡の逆転劇など、選ばれたアスリート達が全力で競技する姿に胸を熱くさせられます。オリンピックの晴れ舞台でメダル獲得という結果につながった選手たちは、本当によい表情で喜びと感謝を語ってくれます。また、健闘むなしく敗れ去った選手たちの悔しい気持ちを抑えつつ敗戦の弁を語る姿もまた感動を与えてくれます。

さて、理事退任の挨拶を、ということですが、特に何かを成し遂げたわけでもなく、オリンピック選手のようにはいきませんが、ただ、大過なく任期を全うできたことに感謝申し上げます。伝統ある日本組織培養学会の運営に関わる機会を頂きまして、大変有意義な経験ができました。きっかけを与えてくださった浅香先生、そして、藤井代表理事をはじめとする関係の皆様には大変お世話になりました。この場をおかりして感謝申し上げます。

私は現在、研究から離れておりまして、これまでのように学会発表をすることは難しい状況にありますが、何らかの形で日本組織培養学会の発展のお役に立てばと願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

須藤 和寛（東京大学医科学研究所附属病院セルプロセッシング・輸血部）

理事退任のご挨拶として細胞培養の未来について最近考えていること少しだけ述べさせていただきます。

ChatGPTの発表を始めとして、ここ数年のAIの進歩には目を見張るものがある。すでに様々な分野においてAIが人間の活動に不可欠となり、研究の世界においてもこれまでのように研究の立案から論文作成までAIの力を借りずに全てを人力で完成させるスタイルは時代遅れになりつつある。数年後には完全にAIに依存して研究活動をせざるを得ない時代が来るように思う。データのデジタル化によるオープンサイエンスの浸透によって様々な技術や知識が世界中で共有されようになる一方で、非常に高度な技術を持つ職人のような研究者はどんどん少なくなっていくのではないかと心配になる。細胞培養の分野もAIの進出から逃れる方策は皆無だと思われるが、細胞培養に長く携わってきた研究者の1人として、これまで先達たちが脈々と積み重ねてきた細胞培養に関するディープな知識やマニアックな技術を失わせないよう、AIをうまく利用してやれば良いのではとも思う。

最後に、細胞培養に関して広い知識と多くの経験を持つ他の理事の先生方と知り合い、様々なお話をすることができたことを深く感謝したいと思う。

2005年に広島大学口腔健康科学科設置されましたが、日本組織培養学会の組織培養実習の黎明期の頃、本学の実習設備を使用いただきながら、本学1期生からお世話になり、大変ありがとうございました。また、藤井先生が代表理事にご就任後、本学会の理事を拝命いたしました。感謝しかありません。今後も日本組織培養学会のご発展と会員の先生方のご健勝を祈念しております。

5) 新理事挨拶

高山 和雄（京都大学 iPS 細胞研究所）

この度、新たに理事として日本組織培養学会の運営に参画させて頂くことになりました高山和雄と申します。とても長い歴史のある学会の理事として参画させていただき、身に余る光栄でございます。まず簡単に自己紹介させていただきます。2009年から2019年まで大阪大学大学院薬学研究科水口裕之教授の研究室にて、大学院生および助教時代を過ごしました。研究を始めた当初はヒトES/iPS細胞の培養法を習得すべく、医薬基盤研究所（現：医薬基盤・健康・栄養研究所）の古江美保プロジェクトリーダーの研究室にてトレーニングの機会を頂きました。日本組織培養学会の大会には2012年から参加させて頂いており、2012年大会（大会長：浅香 勲教授）では幸運にも奨励賞に選んでいただき、大変励みになりました。2020年からは京都大学iPS細胞研究所にて研究室を主宰しており、早くも5年目に突入しております。私の研究室では、iPS細胞やオルガノイド、臓器チップ技術を用いた創薬研究を進めております。私自身の研究において細胞培養は中核的な技術ですし、組織培養学会の活動を通して、細胞培養の重要性、楽しさを広めることが出来ればと思っております。私自身、経験も浅くご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、本学会の発展に少しでも貢献できるように最善を尽くしてまいります。

細見 晃司（大阪公立大学）

この度、新しく日本組織培養学会の理事に選任されました細見晃司と申します。私は2015年4月より国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所にてポスドクとして研究をスタートし、日本学術振興会特別研究員PDや同研究所の主任研究員などを経て、2024年9月より大阪公立大学の准教授に着任し、獣医感染症学教室を主宰しております。研究としては、腸内細菌や消化器感染症を中心に、細菌と宿主の相互作用を理解したいと研究に取り組んできました。その中で、小腸パイエル板組織内共生菌アルカリゲネスと腸管免疫の相互作用に関する研究に取り組み、組織細胞培養技術などを用いて免疫制御メカニズムの一端を解明し、日本組織培養学会第94回学会では奨励賞を頂きました。また、第46回日本基礎老化学会大会におけるジョイントシンポジウムでの講演や評議員などを経て、日本組織培養学会の理事を務めさせて頂くことになりました。これまで日本組織培養学会の活動を通じて研究者として学び成長する機会を頂きましたので、今後は自らの研究に加えて学会運営や若手研究者の育成などを通じて本学会ならびに本研究領域の発展に貢献すべく、より一層努力していきたいと考えております。日本組織培養学会の先生方ならびに関係者の皆さまからのこれまでのご指導とご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご協力を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2. 令和6年度 理事会報告

1) 会員動向

情報担当理事：森 一憲

2024年4月末における本学会会員の入退会の動向は以下のとおりです。

	2014年 3月末	2015年 3月末	2016年 3月末	2017年 3月末	2018年 3月末	2019年 3月末	2020年 3月末	2021年 3月末	2022年 4月末	2023年 4月末	2024年 4月末
正会員	542名	583名	677名	692名	716名	501名	527名	512名	466名	454名	420名
学生会員	125名	146名	176名	184名	196名	122名	103名	94名	78名	76名	58名
賛助会員	20名	8名	9名	10名	12名	13名	12名	10名	10名	6名	9名
名誉会員	21名	21名	20名	23名	26名	27名	26名	26名	26名	26名	26名
寄贈会員	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
計	709名	759名	883名	910名	951名	664名	669名	643名	581名	563名	514名
退会・逝去	865名	898名	942名	997名	1,037名	1,083名	1,116名	1,168名	1,203名	1,245名	1,280名
休会	11名	11名	11名	12名	14名	13名	14名	15名	15名	15名	17名
資格喪失						345名	368名	368名	432名	460名	479名
計	876名	909名	953名	1,009名	1,053名	1,441名	1,498名	1,551名	1,650名	1,720名	1,776名

2) 学会誌「組織培養研究」発刊報告

学術編集担当理事：松木 亨

第95回から第96回大会までの期間の間に以下の総説論文が「組織培養研究」に掲載された。

【Review article】

論文タイトル：食細胞におけるアポトーシス細胞貪食後の遺伝子発現変化の仕組みと意義

英文タイトル：Mechanism and significance of gene expression alteration in phagocytes upon engulfment of apoptotic cells

著者：野中さおり¹，白土明子^{2,3,*}

Saori Nonaka¹，Akiko Shiratsuchi^{2,3}

所属：¹安田女子大学 薬学部薬学科 薬理学分野

Department of Pharmacology, Faculty of Pharmacy, Yasuda Woman's University

²札幌医科大学 医療人育成センター・教養教育研究部門

Center for Medical Education, Sapporo Medical University

³札幌医科大学大学院 医学研究科・分子細胞機能学

Graduate School of Medicine, Sapporo Medical University

初版原稿受理：2023年11月13日

修正第1版受理：2023年12月22日

掲載承認：2023年12月22日

掲載年月日：2024年1月19日

3) 国内外渉外状況の報告

国内外渉外担当理事：嶋本 顕

◆ 一般社団法人日本再生医療学会と連携について

日本組織培養学会は、当学会の細胞培養基盤技術コースと、再生医療学会の臨床培養士認定制度の技術的連携を図るため、再生医療学会と連携協力協定を結んでいます。この度、再生医療学会において臨床培養士認定制度の実技試験免除に関する書類の提出時期が10月上旬に変更となりました。臨床培養士制度試験の受験を希望し、今後、細胞培養基盤技術コース（コースⅠ）の受講を検討している当学会員におかれましては、各会場（日本歯科大学、広島大学、岐阜医療科学大学、アズワン殿町ラボ）でのコースⅠ開催時期にご注意ください。コースⅠの開催時期については、8月頃に当学会のHPでご案内する予定です。

◆ 日本基礎老化学会－日本組織培養学会ジョイントシンポジウムの開催について

2024年は日本基礎老化学会第47回大会（6月15日(土)－16日(日)@芝浦工業大学 豊洲キャンパス）において、以下の通りジョイントシンポジウムが開催されました。

【座長】

片岡 健 先生（岡山理科大学）日本組織培養学会

中村 庸輝 先生（広島大学・医系科学研究科（薬））日本基礎老化学会

【演者】

1. 大沼 清 先生（長岡技術科学大学）：日本組織培養学会

Innovative Gravity-Driven and Electric-Assisted Microfluidic Culture System for Human Induced Pluripotent Stem Cell Assays

2. 岩井 良輔 先生（岡山理科大学）：日本組織培養学会

Development of cell self-aggregation technique-based tissue engineering - Challenges for applications in regenerative medicine and 3D culture models-

3. 柿澤 昌 先生（東京都健康長寿医療センター）：日本基礎老化学会

Acute brain slice preparations for approaching cellular and molecular mechanisms of higher brain function

4. 加藤 優吾 先生（鳥取大学）：日本基礎老化学会

Microglial xCT is a novel therapeutic target for Alzheimer's disease

◆ 日本動物実験代替法学会 37 回大会の後援について

日本動物実験代替法学会 37 回大会が 2024 年 11 月 29 日(金)－12 月 1 日(日)にライトキューブ宇都宮において開催されます。当学会員が事前参加申し込みの場合には、日本動物実験代替法学会会員と同額の 9,000 円でご参加いただけます（非会員参加費 13,000 円）。奮ってご参加ください。

4) 年会費値上げについて

代表理事：藤井 万紀子

つくば国際会議場で 2024 年 6 月 28 日に開催された一般社団法人日本組織培養学会総会において、年会費値上げについての経緯を学会会員の皆様にご説明し、ご審議いただきました。

年会費値上げ検討は、以下の 3 つの理由に基づき、理事会から提案させていただきました。

1. 昨今の世界情勢や国内情勢による円安と物価上昇による支出額の増加
2. 運営事務処理の簡略化（年会費のクレジットカード支払いの導入など）に伴う学会支援機構へのシステム使用料の必要性
3. 法人化に伴う安定した財務収支バランスの確保の必要性

2024 年度までの年会費は以下のとおりです。

- ・正会員 : 6,000 円
- ・学生会員 : 3,000 円 (正会員の半額)
- ・賛助会員 : 30,000 円 (1 口)

総会では、会員の皆様に 2025 年度からの年会費変更をご承認いただきました。皆様のご理解に心より深く感謝申し上げます。

- ・正会員 : 8,000 円
- ・学生会員 : 4,000 円 (正会員の半額)
- ・賛助会員 : 30,000 円 (1 口)

なお、賛助会員につきましては、新たにシルバー賛助会員とゴールド賛助会員を創設致します。ご興味のある企業さまにおかれましては、ぜひご検討ください。

シルバー賛助会員 50,000 円 (1 口)

- ・大会の参加証 2 枚
- ・大会の展示ブース出展費 5%値引き
- ・細胞培養基盤技術コース講習会でのパンフレット配布

ゴールド賛助会員 70,000 円 (1 口)

- ・大会の参加証 4 枚
- ・大会の展示ブース出展費 10%値引き
- ・細胞培養基盤技術コース講習会でのパンフレット配布

年会費に関しましてはこれまで何度も検討が行われてまいりましたが、1992 年の値上げ（会員通信第 77 号）以降、30 年以上にわたり据え置きの状態が続いておりました。しかしながらこのたび、今後も日本組織培養学会の活動を一層充実・発展させるため、誠に苦渋の決断ではございますが、年会費の改定を行う運びとなりました。会員の皆様には、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 令和 5 年度 会計報告

財務担当理事：筒井 健夫
会計実務担当：西條 薫

令和 5 年度の貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、収支計算書、収支計算書に対する注記、財産目録の詳細については次頁からのとおりです。

なお、2023 年度（2023 年 5 月 1 日から 2024 年 4 月 30 日まで）の決算書類については、峯 裕一 会員に監事をお願いし、厳正な監査の結果、会計が適切に処理されていることをご確認の上、ご承認いただきました（2024 年 6 月 25 日）。

本決算書は、第 95 回大会総会において承認されました。

貸借対照表

2024年 4月30日現在

一般社団法人日本組織培養学会

一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	22,439,107	22,774,871	△ 335,764
仮払金	69,300	73,160	△ 3,860
流動資産合計	22,508,407	22,848,031	△ 339,624
2. 固定資産			
特定資産			
2024 WCIVB積立預金	200,000	200,000	0
特定資産合計	200,000	200,000	0
固定資産合計	200,000	200,000	0
資産合計	22,708,407	23,048,031	△ 339,624
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,564,119	1,071,061	1,493,058
前受金	0	1,206,000	△ 1,206,000
前受会費	45,000	0	45,000
仮受金	64,300	0	64,300
流動負債合計	2,673,419	2,277,061	396,358
負債合計	2,673,419	2,277,061	396,358
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	20,034,988	20,770,970	△ 735,982
負債及び正味財産合計	22,708,407	23,048,031	△ 339,624

正味財産増減計算書

2023年 5月 1日から2024年 4月30日まで

一般社団法人日本組織培養学会

一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
入会金収入	51,000	27,000	24,000
正会員会費収入	2,701,000	2,304,000	397,000
学生会員会費収入	184,000	90,000	94,000
賛助会員会費収入	240,000	270,000	△ 30,000
機関誌関連収入	120,958	113,155	7,803
講習会事業収入	465,000	0	465,000
大会収入	3,491,685	6,412,016	△ 2,920,331
書籍印税収入	152,231	0	152,231
雑収入	180	70,197	△ 70,017
経常収益計	7,406,054	9,286,368	△ 1,880,314
(2) 経常費用			
機関誌発行費	786,831	688,934	97,897
会員通信発行費	210,247	270,967	△ 60,720
大会支出	3,106,551	5,620,841	△ 2,514,290
講習会事業会費	1,019,239	12,500	1,006,739
情報企画委員会費	143,869	133,254	10,615
法人化推進委員会費	0	500,000	△ 500,000
学会奨励賞費	140,000	280,000	△ 140,000
学会EPA賞費	90,000	180,000	△ 90,000
会議費	165,000	0	165,000
通信運搬費	78,392	0	78,392
印刷製本費	1,870	0	1,870
学会業務委託費	1,299,144	1,707,816	△ 408,672
支払報酬	644,000	0	644,000
租税公課	128,300	0	128,300
雑費	218,593	126,000	92,593
選挙費	110,000	0	110,000
経常費用計	8,142,036	9,520,312	△ 1,378,276
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 735,982	△ 233,944	△ 502,038
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 735,982	△ 233,944	△ 502,038
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
日本組織培養学会からの寄付金収入	0	21,004,914	△ 21,004,914
経常外収益計	0	21,004,914	△ 21,004,914
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	21,004,914	△ 21,004,914
当期一般正味財産増減額	△ 735,982	20,770,970	△ 21,506,952
一般正味財産期首残高	20,770,970	0	20,770,970
一般正味財産期末残高	20,034,988	20,770,970	△ 735,982
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	20,034,988	20,770,970	△ 735,982

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減及びその残高

基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産 2024WCIVB 積立 預金	200,000	0	0	200,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産 2024WCIVB 積立 預金	200,000	0	200,000	0

収支計算書

2023年 5月 1日から2024年 4月30日まで

一般社団法人日本組織培養学会

一般会計

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
入会金収入	30,000	51,000	△ 21,000
正会員会費収入	2,400,000	2,701,000	△ 301,000
学生会員会費収入	150,000	184,000	△ 34,000
賛助会員会費収入	270,000	240,000	30,000
機関誌関連収入	100,000	120,958	△ 20,958
講習会事業収入	1,190,000	465,000	725,000
大会収入	4,475,000	3,491,685	983,315
書籍印税収入	70,000	152,231	△ 82,231
雑収入	200	180	20
事業活動収入計	8,685,200	7,406,054	1,279,146
2. 事業活動支出			
機関誌発行費	638,000	786,831	△ 148,831
会員通信発行費	600,000	210,247	389,753
大会支出	3,566,000	3,106,551	459,449
講習会事業会費	1,840,000	1,019,239	820,761
情報企画委員会費	144,000	143,869	131
法人化推進委員会費	150,000	0	150,000
学会奨励賞費	280,000	140,000	140,000
学会EPA賞費	180,000	90,000	90,000
会議費	100,000	165,000	△ 65,000
旅費交通費	100,000	0	100,000
通信運搬費	70,000	78,392	△ 8,392
印刷製本費	50,000	1,870	48,130
学会業務委託費	1,400,000	1,299,144	100,856
支払報酬	700,000	644,000	56,000
租税公課	400,000	128,300	271,700
雑費	62,000	218,593	△ 156,593
選挙費	400,000	110,000	290,000
事業活動支出計	10,680,000	8,142,036	2,537,964
事業活動収支差額	△ 1,994,800	△ 735,982	△ 1,258,818
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
当期収支差額	△ 1,994,800	△ 735,982	△ 1,258,818
前期繰越収支差額	20,570,970	20,570,970	0
次期繰越収支差額	18,576,170	19,834,988	△ 1,258,818

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、仮払金、未払金、前受会費、仮受金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	22,774,871	22,439,107
仮払金	73,160	69,300
計	22,848,031	22,508,407
未払金	1,071,061	2,564,119
前受会費	1,206,000	45,000
仮受金	0	64,300
計	2,277,061	2,673,419
次期繰越収支差額	20,570,970	19,834,988

財産目録

2024年 4月30日現在

一般社団法人日本組織培養学会

一般会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	普通預金	運転資金として	22,439,107
		三井住友銀行大塚支店		21,053,973
	仮払金	三井住友銀行大塚支店	第95回大会	1,385,134
				69,300
流動資産合計				22,508,407
(固定資産)				
特定資産	2024 WCIVB積立預金			200,000
		三井住友銀行大塚支店		200,000
固定資産合計				200,000
資産合計				22,708,407
(流動負債)				
	未払金	年度末精算等		2,564,119
	前受会費			45,000
	仮受金	不明入金1件		64,300
流動負債合計				2,673,419
負債合計				2,673,419
正味財産				20,034,988

独立監査人の監査報告書

2024 年 6 月 25 日

一般社団法人日本組織培養学会
理事会 御中

紅林公認会計士事務所

公認会計士 紅林優光



監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 124 条第2項第1号の規定に基づき、一般社団法人日本組織培養学会の 2023 年 5 月 1 日から 2024 年 4 月 30 日までの第 2 期事業年度の貸借対照表、損益計算書(公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。)及び財務諸表に対する注記並びに財産目録、収支計算書(以下「財務諸表等」という。)について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益(正味財産増減)の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの

兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要

な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

4. 令和6年度 予算書

財務担当理事：筒井 健夫
会計実務担当：西條 薫

収支予算書

2024 年 5 月 1 日から 2025 年 4 月 30 日まで

一般社団法人日本組織培養学会

一般会計

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
入会金収入	40,000	30,000	10,000	40 名として
正会員会費収入	2,700,000	2,400,000	300,000	≒ 470 名×6,000 円×95%
学生会員会費収入	150,000	150,000	0	≒ 80 名×3,000 円×60%
賛助会員会費収入	270,000	270,000	0	= 9 口×30,000 円×100%
機関誌関連収入	100,000	100,000	0	著作権使用料等
講習会事業収入	1,600,000	1,190,000	410,000	
大会収入	5,625,000	4,475,000	1,150,000	第 96 回大会
書籍印税収入	150,000	70,000	80,000	「細胞培養実習テキスト」 「組織培養の技術」
雑収入	200	200	0	利息
事業活動収入計	10,635,200	8,685,200	1,950,000	
2. 事業活動支出				
機関誌発行費	645,000	638,000	7,000	VOL.41-2
会員通信発行費	400,000	600,000	△ 200,000	150-151 号
大会支出	6,625,000	3,566,000	3,059,000	第 96 回大会
講習会事業会費	2,000,000	1,840,000	160,000	細胞培養基盤技術コース Ⅰ～Ⅲ 計 9 回
情報企画委員会費	150,000	144,000	6,000	サーバー利用料, ドメイン料
法人化推進委員会費	0	150,000	△ 150,000	法人化完了のため次年度から削除
学会奨励賞費	300,000	280,000	20,000	
学会 EPA 賞費	240,000	180,000	60,000	
会議費	100,000	100,000	0	参加登録システム, ZOOM 利用料含む
旅費交通費	200,000	100,000	100,000	第 47 回日本基礎老化学会 大会派遣旅費含む
通信運搬費	80,000	70,000	10,000	郵送料, 宅急便代等
印刷製本費	50,000	50,000	0	印刷, コピー代等
学会業務委託費	1,350,000	1,400,000	△ 50,000	学会支援機構
支払報酬	700,000	700,000	0	公認会計士, 税理士報酬

租税公課	70,000	400,000	△ 330,000	名誉会員への記念品, 消耗品, 振込手数料他
雑費	150,000	62,000	88,000	
国際交流積立預金繰入支出	200,000	0	200,000	
選挙費	0	400,000	△ 400,000	
事業活動支出計	13,260,000	10,680,000	2,580,000	
当期収支差額	△ 2,624,800	△ 1,994,800	△ 630,000	
前期繰越収支差額	19,834,988	20,570,970	△ 735,982	
次期繰越収支差額	17,210,188	18,576,170	△ 1,365,982	

5. 第 96 回大会（2024 年）を終えて

1) 大会長報告

第 96 回大会長：林 洋平

この度、日本組織培養学会第 96 回大会を、2024 年 6 月 27 日（木）と 28 日（金）の二日間にわたって、つくば国際会議場にて開催いたしました。約 170 名の方にご参加いただき、非常に活発なご議論をいただいた大会となりました。

今回の大会では、「細胞ができること 培養でできること」をテーマとして、奨励賞対象演題（5 演題）、English Presentation Award (EPA)（7 演題）、特別講演（1 演題）、教育講演（1 演題）、3 つのシンポジウム（9 演題）、一般演題（口演 9 演題、ポスター 22 演題）、ランチョンセミナー（2 演題）という内容でご発表いただきました。特別講演では、筑波大学の柳沢正史先生に、睡眠研究やその社会実装に関する最新の知見をご講演いただきました。教育講演では、理化学研究所バイオリソース研究センターの中村幸夫先生に、これまでの長年にわたる細胞バンク事業の運営についてご講演いただきました。シンポジウムでは、「がんの分子機構のフロンティア」、「生理工学・幹細胞研究のフロンティア」、「細胞の培養・操作・アッセイ技術のフロンティア」についてのセッションを企画させていただき、それぞれの分野で活発に研究されている第一人者の先生方にご講演いただきました。また、細胞培養基盤教育委員会主催の細胞培養指導士講習会も開催されました。本大会でのご発表やご議論が、参加された方々への今後の糧となり、組織培養学の発展につながることを期待しております。

本大会の開催にあたり、ご協力・ご支援をくださいました座長、演者、会員諸氏、参加者、ご後援くださいました団体の皆様に改めて心より感謝申し上げます。また、企業展示および広告などでご協賛をいただいた企業様（ランチョンセミナースポンサー 2 社、抄録集広告 16 社、web サイトバナー広告 8 社、会場スクリーン広告 2 社、企業展示 18 社、コーヒープレイクスポンサー 1 社）にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。当日の運営には行き届かない点多々あったと存じますが、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

第 97 回大会は、嶋本顕先生の大会長の下、2025 年 8 月 21 日（木）と 22 日（金）の二日間にわたって、山口東京理科大学にて行われる予定です。皆様と再びお目にかかれまこと、また新たな研究成果を持ち寄って活発な交流ができますことを心待ちにしております。

2) 研究奨励賞・EPA 審査結果

教育・奨励賞担当理事：中村 和昭

日本組織培養学会奨励賞は、第 96 回大会より新たに日本組織培養学会研究奨励賞として実施されました。組織・細胞培養に関する研究を行う将来性ある本学会所属の研究者の研究を奨励し、本学会の活性化を図ることを目的として、大学院を修了して 10 年未満の研究者または大学院在籍中の学生である本学会員を対象とし、奨励賞候補演題の募集が行われました。

応募演題に対する審査員（大会長および学会理事）による書類選考の結果、伊藤秀矩氏（理化学研究所、演題名「患者特異的 iPS 細胞を用いたヒト VHL 病疾患モデルの開発」）、合原勇馬氏（岡山大学大学院、演題名「核内 PD-L1 による MCRIP1 制御を介した癌転移促進機序の解明」）、常浦祐未氏（愛知県医療療育総合センター、演題名「精神疾患・発達障害患者から同定された遺伝子多型が神経機能に与える影響」）、本池総太氏（京都大学、演題名「ヒト iPS 細胞由来第一咽頭弓外胚葉性間葉を用いた顎骨オルガノイドの創成」）ならびに辰己久美子氏（大阪国際がんセンター、演題名「肝オルガノイドのミトコンドリア活性化とオキサリプラチン誘発性肝障害の個別予測」）の 5 名が、奨励賞候補者として大会における口頭発表を行いました。

発表後の質疑応答では、それぞれに活発な討論がなされ、発表および質疑応答に対して審査員による厳正な審査が行われました。その結果、本池総太氏が研究奨励最優秀賞に、伊藤秀矩氏、合原勇馬氏、常浦祐未氏ならびに辰己久美子氏が研究奨励優秀賞に値すると評価され、授与式で藤井万紀子代表理事よりそれぞれ日本組織培養学会第 96 回大会研究奨励最優秀賞および優秀賞が授与されました。受賞者には受賞を機に、引き続き大会での発表等を通じて本学会で活躍されることを期待しています。また、本賞が将来性ある本学会所属の研究者の奮起を促し、その受賞を目指し、次回の大会でも積極的な応募がなされることを期待しています。

English Presentation Award (EPA) も、会員の国際的発信能力の増進を奨励し、本学会の活性化を図るとの目的をより達成するため、第 96 回大会より運営が見直されました。第 96 回大会では、EPA 候補演題として Yun-Hsuan Chang 氏（Riken BRC、演題名「Extracellular vesicles derived from Wharton's Jelly mesenchymal stem cells inhibit the tumor environment via the miT-125b/HIF1 α signaling pathway」）、Kanon Otsuka 氏（Tokyo University of Science、演題名「Generation of cell models with Gasdermin D mutation responsible for atypical osteolytic Gorham-Stout disease」）、Taro Osawa 氏（Okayama University、演題名「Establishment of human iPS cell lines derived from NF1 patients to elucidate the mechanism of malignant transformation of neurofibromas」）、Tomoya Shimizu 氏（Riken BRC、演題名「Elucidating pathogenesis of Wolf-Hirschhorn syndrome using patient-derived human induced pluripotent stem cells」）、Olivia Marchia Kusuma 氏（Tokyo University of Science、演題名「Identification of cell competition markers」）、Miyu Mori 氏（Riken BRC、演題名「Generation of human induced pluripotent stem cell line four Rett syndrome patients with *MECP2* mutation」）ならびに Nahoko Tomonobu 氏（Okayama University、演題名「Study on a novel molecular mechanism of mesothelioma progression that is triggered by activation of Ca²⁺ channel」）による英語での口頭発表が行われました。大会長に加え代表理事および大会長の指名する審査員による審査により、いずれの候補者も十分な英語力

での発表および質疑応答により、EPA 受賞に値すると評価され、授与式で藤井万紀子代表理事より EPA が授与されました。EPA は国際学会での発表に向けた経験の場としても活用していただけたと思います。次回の大会でも、若手研究者を中心に積極的な応募がなされることを期待します。

学生や若手研究者を指導されている先生方におかれましては、本学会における若手研究者育成の観点からも、ご所属の学生や若手研究者の両賞への積極的な応募をご指導いただけますと幸いです。

3) 研究奨励賞受賞者

【研究奨励最優秀賞】

本池 総太（京都大学 iPS 細胞研究所）

この度は、日本組織培養学会第 96 回大会におきまして、研究奨励賞最優秀賞を授与いただき、誠に光栄に存じます。表彰演題である「ヒト iPS 細胞由来第一咽頭弓外胚葉性間葉を用いた顎骨オルガノイドの創成」を推薦していただいた先生、藤井万紀子理事長、林 洋平大会長ならびに日本組織培養学会の関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

本研究課題で私たちが焦点を当てた顎骨は食事摂取や呼吸をはじめ生命維持に大変重要な器官ですが、口腔内細菌感染などの多様な病的因子によって不可逆的な組織喪失を起こしやすい器官でもあります。特に私の背景は歯科医師であり、日々の臨床で治療が手遅れとなった大規模顎骨破壊や顎骨関連疾患を数多く経験して参りました。そのため、現状の壁を打破するため、再生治療や疾患解析に応用可能な顎骨組織そのものを作製することができないかと研究を開始しました。近年、全身のあらゆる器官で多能性幹細胞を用いたオルガノイドが樹立され、再生治療や病態解明研究を劇的に発展させておりますが、顎骨オルガノイドの樹立はこれまで報告されておられません。その原因として、顎骨の起源である頭部神経堤細胞(neural crest cell, NCC)由来第一咽頭弓(1st pharyngeal arch, PA1)外胚葉性間葉(PA1 ectomesenchyme, PA1-EM)を誘導する技術が未確立であることが挙げられます。また、従来の 2 次元培養ではヒト iPS 細胞から骨細胞の 3 次元ネットワークを再現することは、いずれの骨組織においても未だ十分に達成されておられません。私たちはオルガノイド作製技術を基軸に、これら 2 つの課題に挑み、その成果として、3 次元培養したヒト iPS 細胞から NCC 集塊を経て、下顎に特徴的な領域パターンニングを示す PA1-EM (Mandibular PA1-EM, mdEM)を誘導することに成功しました。さらに、mdEM に段階的な骨分化培養を施すことによって、石灰化骨基質・表面を取り囲む骨芽細胞・内部でネットワークを形成する骨細胞からなる顎骨様オルガノイドを作製することに成功しました。また、この顎骨様オルガノイドの顎骨再生治療や顎骨疾患の病態解析モデルとしての有効性を示しました。

今後の本研究の展開につきまして、顎骨様オルガノイドは顎骨の発生過程初期の膜性骨化を想定して作製しておりますが、骨吸収性の細胞である破骨細胞を含まないため成熟骨組織の特徴であるリモデリングを再現できておりません。そこで、近年その発展が目覚ましい organ-on-a-chip 技術や骨髄オルガノイド技術の応用によって破骨細胞・血管を組み込み、生体外で骨リモデリングを再現することを目指して研究を進行中です。

また、「口腔」分野は、大半の口腔組織の形成に関与する PA1-EM を誘導する方法が樹立されていなかったため、オルガノイドの開発が遅れています。本研究で得ら

れる mdEM を基軸に、歯牙・咀嚼筋・唾液腺といった口腔のあらゆる組織の誘導に挑み、顎骨オルガノイドとあわせて学術大会にて成果を報告することで、本学会の発展に貢献していきたいです。

最後になりましたが、これまで多大なるご指導をいただきました京都大学 iPS 細胞研究所 池谷真先生、戸口田淳也先生、広島大学病院加治屋幹人先生をはじめ、これまで私を支えてくださった多くの先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

【研究奨励優秀賞】

伊藤 秀矩（理化学研究所バイオリソース研究センター）

この度は、名誉ある研究奨励賞を賜り大変光栄に感じております。御指導頂いている当チームリーダー林 洋平先生をはじめとした研究室の皆様、共同研究者の皆様、また、本大会発表の機会を与えてくださいました日本組織培養学会関係者の皆様、運営協力を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。本学会にて、成果を評価頂けたことは、今後の研究活動の何よりの支えとなります。本当にありがとうございました。最後に、日頃から私の研学生活を支えてくれている妻と三人の娘に感謝の意を示したいと思います。

合原 勇馬（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科）

この度は、組織培養学会第 96 回大会 研究奨励優秀賞を受賞できましたこと大変嬉しく思います。本賞を受賞するにあたって、厳正なる審査をしてくださいました審査員の皆様、大変貴重な質疑をしていただきましたご参加の皆様、そして、私の研究遂行にあたって、多大なるご尽力をいただきました阪口政清先生をはじめ、同研究室の皆様に心より御礼申し上げます。本学会での発表を通して、多くのご質疑をいただきましたことで、改めて、今後の課題を認識することができたのと同時に、新たなインスピレーションを受けることができました。また、他演者の皆様におかれましても、普段お話を伺う機会があまりない分野でしたので、大変興味深く多くのことを学ばせていただきました。今後も、本学会ご参加の皆様と議論をかわし、切磋琢磨、共同することで研究推進をはかっていければと思います。

さらに、本学会を通じて学んだことを自身の研究に生かし、核内 PD-L1 の機能解明に貢献することで、医療の発展に貢献する所存でございます。

最後に、改めて本賞いただきましたこと、ご関係の皆様に御礼申し上げます。

常浦 祐未（愛知県医療療育総合センター発達障害研究所）

この度は日本組織培養学会第 96 回大会におきまして、研究奨励優秀賞を頂戴し大変光栄に存じます。理事長の藤井万紀子先生、第 96 回大会長の林洋平先生および日本組織培養学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

本大会では、「精神疾患・発達障害患者から同定された遺伝子多型が神経機能に与える影響」という演題名で発表させていただきました。近年のゲノム解析技術の進歩により、精神疾患や発達障害との関連が強い遺伝子多型が次々と報告されてきました。一方で、特定された遺伝子多型の生物学的機能を解析した研究報告は限られており、詳細な病態メカニズムの解明には至っていないのが現状です。私たちの研究グループはゲノム解析によって、統合失調症患者から *RELN* 遺伝子の 12.6 kb の

欠失を、知的障害患者から *RAB11A* 遺伝子の *de novo* ミスセンス多型(c.98G>C, p.(R33P))を同定しました。私たちはこれらの遺伝子多型による病態形成機序の解明を目指し、培養技術を駆使した *in vitro* 病態モデルを用いて研究を進めてまいりました。神経科学的解析の結果から、これらの遺伝子多型によって細胞形態や細胞内シグナル異常が引き起こされ病態形成に繋がることを見出しました。今後も培養系を用いた病態機序解析を進めるとともに、新規治療法の開発を目指した研究を行いたいと考えております。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導を賜りました、愛知県医療療育総合センター発達障害研究所 中山敦雄先生をはじめ、多くの共同研究者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

辰己 久美子（大阪国際がんセンター がん創薬部）
（京都大学大学院 消化管外科学）
（京都大学医学部附属病院 医療開発部）

このたびは日本組織培養学会第 96 回大会奨励賞の栄誉を賜り、大変光栄に存じます。本大会にて発表の機会を賜りました理事長・藤井万紀子先生、大会長・林 洋平先生、選考委員の先生方、日本組織培養学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本大会では、「肝オルガノイドのミトコンドリア活性化とオキサリプラチン（L-OHP）誘発性肝障害の個別予測」についてご紹介致しました。L-OHP による肝障害は治療選択に影響を与える事があり、予防を含むマネジメントが臨床的に重要です。しかし、予測方法が確立されておらず現在のところ治療開始前の予測は困難です。本研究では個別患者の非がん部肝組織から得た肝オルガノイドを用いて、培養法を工夫して L-OHP による細胞傷害性を評価することで、L-OHP 誘発性肝障害の発生を個別予測できる可能性を見出しました。本学会から細胞培養士の認定を受けて以来、細胞培養でできる可能性を探ることを検討してきました。実際の患者一人一人の臨床情報と由来細胞の反応を精査に評価することは、治療に貢献する重要な手かかりを発見する可能性があります。一方で、私自身も苦勞をしましたが、臨床の場で細胞を用いた評価を実現するには患者の理解、病院・専門医の協力、細胞培養の知見、労力の全てが必要で、全てが揃う恵まれた環境の臨床研究者は限られています。今後は、引き続き細胞培養を用いた患者個別の副作用に関する研究を続け、研究の環境整備にも寄与することが社会への貢献と捉え、努めてまいります。本大会の研究奨励賞は、今後の研究活動に対して大変励みとなります。

最後に、本研究の遂行にあたり、ご指導賜りました大阪国際がんセンター・がん創薬部の田原秀晃先生、京都大学大学院・消化管外科の小濱和貴先生をはじめ研究室の皆さま、検体・情報収集にご協力をいただきました大阪国際がんセンターの先生方、患者さんには深謝申し上げます。

6. 委員会報告

1) 細胞培養基盤教育委員会（細胞培養基盤技術コース開催予定）

教育・学術担当理事／委員長：片岡 健

日頃より日本組織培養学会細胞培養基盤教育委員会の活動へのご理解・ご協力をいただき感謝しております。

細胞培養基盤技術コースの安定的な開催のために、本委員会を二つの担当委員会に分けて運用することを理事会で決定し総会で報告しました。具体的には以下の二つの委員会を編成します。現在、それぞれの委員会で構成メンバーを調整中ですが、両委員会において委員を併任することが可能となっています。

(1) 細胞培養基盤教育委員会（委員長：片岡健）

担当内容：細胞培養士・細胞培養指導士の認定・登録，細胞培養指導士講習会の開催，細胞培養基盤技術コース内容の確認・見直し，日本再生医療学会との連携交渉

(2) 細胞培養講習会運営委員会（委員長：嶋本顕）

担当内容：細胞培養基盤技術コース運営規程の策定，講習会会場及び会場責任者の登録，各コース事業計画の管理

本年度の細胞培養基盤技術コースは以下の開催計画を進めています。詳細は学会ホームページ・ニュースレター等でご案内いたします。

【コースⅠ】

日本歯科大学：2回（年内1回，年明け1回）

アズワン殿町ラボ：2回（平日，年内2回）

広島大学：1回（年明け）

岐阜医療科学大学：1回（年内）

【コースⅡ】

岐阜医療科学大学：1回（年明け）

【コースⅢ】

岡山理科大学：2回（年内1回，年明け1回）

また近年の研究関連消耗品や講師宿泊費等の経費高騰と細胞培養基盤技術コースの採算を鑑みて，コース参加費についての検討を進めることが理事会で承認され総会で報告しました。今後，上記の二つの委員会で慎重に検討する予定です。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。ご質問などございましたら，片岡（kenk@ous.ac.jp）までお問い合わせください。

2) 細胞培養講習会運営委員会の設置

委員長：嶋本 顕

日本組織培養学会は，細胞培養に関する技術・知識の社会への普及に努め，社会的ニーズに応えるべく細胞培養士の育成に尽力してまいりました。一般社団法人移行後も公益性をもつ学術団体として，細胞培養士の社会的意義並びに社会的要請を踏まえ，2024年度より，細胞培養基盤技術コース（コースⅠ～Ⅲ）の円滑，且つ継続的な運営を図ることを目的として，細胞培養講習会運営委員会を設置することといたしました。年度のはじめには全会場を含めた事業計画を策定し，講習会の受講を希望する当学会員の方々に向けて HP 上で速やかに周知できる体制を，この委員会を通じて整備してまいります。

3) 総務委員会の設置および規定

委員長：森 一憲

2024 年 6 月 28 日（金）に開催された総会にて総務委員会の設置が承認された。総務委員会の目的や業務内容、運営などを以下にまとめた。

1. 総務委員会設置の目的：

当学会の運営において、会員管理や会員への連絡事項などの庶務的事項と、社員総会開催や定款変更、規定整備、商標や著作権等の知的財産の管理に、他団体との契約締結といった法務的事項の管理については、組織的な対応ができておらず、定型業務もありながら効率的な対応ができていなかった。そこで、これらの業務を分掌する組織として総務委員会を設置する。

2. 総務委員会の業務内容：

- (1) 会員管理に関すること。
- (2) 定款、定款細則、その他規定に関すること。ただし、他の専門委員会等により制定された規定類は除く。
- (3) 社員総会等一般社団法人法に定められた会議の開催に関すること。
- (4) 理事および評議員の選任に関する事務的事項。
- (5) 本会が所有する知的所有権等の管理に関すること。
- (6) 本会が締結する契約等の管理に関すること。
- (7) 会員通信の発行に関すること。
- (8) 会員への伝達事項に関すること。
- (9) その他、理事会あるいは委員会が必要と認めた事項。

3. 総務委員会の運営：

- (1) 本委員会は委員長が招集し、委員長が議長を務める。委員長が職務を行えないときは、副委員長が代行する。
- (2) 総務委員会の成立定足数は定員の 2 分の 1 以上とする。出席できない場合は、委任状を提出することができる。
- (3) 議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (4) 総務委員会を開催することが困難であると委員長が判断した場合は、委員の 2 分の 1 以上の同意を得た場合に限り、電子メール、ファクシミリ、その他の電磁的記録をもって表決することができる。
- (5) 会議の議事については、議事録を作成する。

4. 総務委員会委員の選任：

- (1) 本委員会は、委員長および委員 10 名以内をもって構成する。
- (2) 委員長は、理事または評議員の中から理事長の指名により選任される。
- (3) 委員は、正会員の中から委員長の指名により選任される。
- (4) 委員長は、委員の中から委員長の職務を代行するものとして、副委員長を指名することができる。
- (5) 委員の任期は、理事会の任期と同一とし、再任は妨げない。
- (6) 委員がやむを得ない事情により任期途中で交代する場合は、前任者の残任期間とする。

制定 令和 6 年 6 月 26 日

(委員会の設置)

第1条 定款第 37 条に基づき、一般社団法人日本組織培養学会（以下本会という）に、本会運営に関する法務的事項ならびに庶務的事項等を分掌する組織として総務委員会（以下本委員会という）を設置する。

(業務)

第2条 本委員会は、前条の目的を達成するため、次の業務を担当する。

- (1) 会員管理に関すること。
- (2) 定款、定款細則、その他規定に関すること。ただし、他の専門委員会等により制定された規定類は除く。
- (3) 社員総会等一般社団法人法に定められた会議の開催に関すること。
- (4) 理事および評議員の選任に関する事務的事項。
- (5) 本会が所有する知的所有権等の管理に関すること。
- (6) 本会が締結する契約等の管理に関すること。
- (7) 会員通信の発行に関すること。
- (8) 会員への伝達事項に関すること。
- (9) その他、理事会あるいは委員会が必要と認めた事項。

(構成)

第3条 本委員会は、委員長および委員 10 名以内をもって構成する。

- (1) 委員長は、理事または評議員の中から理事長の指名により選任される。
- (2) 委員は、正会員の中から委員長の指名により選任される。
- (3) 委員長は、委員の中から委員長の職務を代行するものとして、副委員長を指名することができる。
- (4) 委員の任期は、理事会の任期と同一とし、再任は妨げない。
- (5) 委員がやむを得ない事情により任期途中で交代する場合は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第4条 本員会は委員長が招集し、委員長が議長を務める。委員長が職務を行えないときは、副委員長が代行する。

- (1) 総務委員会の成立定足数は定員の 2 分の 1 以上とする。出席できない場合は、委任状を提出することができる。
- (2) 議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (3) 総務委員会を開催することが困難であると委員長が判断した場合は、委員の 2 分の 1 以上の同意を得た場合に限り、電子メール、ファクシミリ、その他の電磁的記録をもって表決することができる。
- (4) 会議の議事については、議事録を作成する。

(規則の変更)

第5条 本規定を変更する場合には、本委員会の議を経て、理事会の議決を得なければならない。

附則

この規則は、令和6年6月26日から施行し、同日より適用する

7. 第97回大会(2025年)開催のお知らせ

第97回大会長：嶋本 顕

この度、山口東京理科大学(山口県山陽小野田市)において、2025年度日本組織培養学会第97回大会を開催することとなりました。大学の施設ということもあり、会期は夏季休業中の8月21日(木)・22日(金)の2日間を予定しております。

第97回大会では「創薬・医療・基礎研究を支える培養技術の基礎と実践」をテーマとし、シンポジウムでは培養細胞で今注目を集める基礎研究や、ここ最近の細胞エンジニアリングの進展など、ホットな研究領域から演者の選定を進めています。そして、培養細胞そのものが医薬や食品となるこの時代に必要とされる培養手技に焦点を当て、日本再生医療学会とのジョイント教育セミナーを企画しました。ご参加の皆さんで大いに議論できる場にしたいと考えています。

また山口市は、ニューヨーク・タイムズ紙「2024年に行くべき52カ所」に選ばれ、山口県全体が観光地として注目を集めています。山口東京理科大学のある山陽小野田市は、西は下関市、東は宇部市に挟まれ、山口市をはじめ長門市や萩市にも近いロケーションにあります。会期の翌日は土曜日ですので、是非この機会に山口観光を含めて学会参加スケジュールを立てていただきたいと思います。来年の大会はこの山陽小野田の地で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

大会概要

大会名称：日本組織培養学会 第97回大会

大会テーマ：創薬・医療・基礎研究を支える培養技術の基礎と実践(仮)

大会長：嶋本 顕

(山陽小野田市立山口東京理科大学 副学長/薬学研究科 教授)

会期：2025年8月21日(木)～22日(金) 2日間

会場：山陽小野田市立山口東京理科大学

(所在地：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1)

大会プログラム(予定)

1. 特別講演：演者選考中
2. 特別企画：日本組織培養学会—日本再生医療学会ジョイント教育セミナー
3. シンポジウム1～3：(シンポジスト選定中)
4. 一般演題(口頭発表、ポスター発表)
5. 奨励賞対象演題
6. English Presentation Award(EPA)対象演題
7. 委員会企画：細胞培養基盤教育委員会「細胞培養指導士講習会」
8. ランチョンセミナー：(協賛企業募集中)

大会事務局：山陽小野田市立山口東京理科大学 薬学研究科 再生医療学分野

所在地：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1